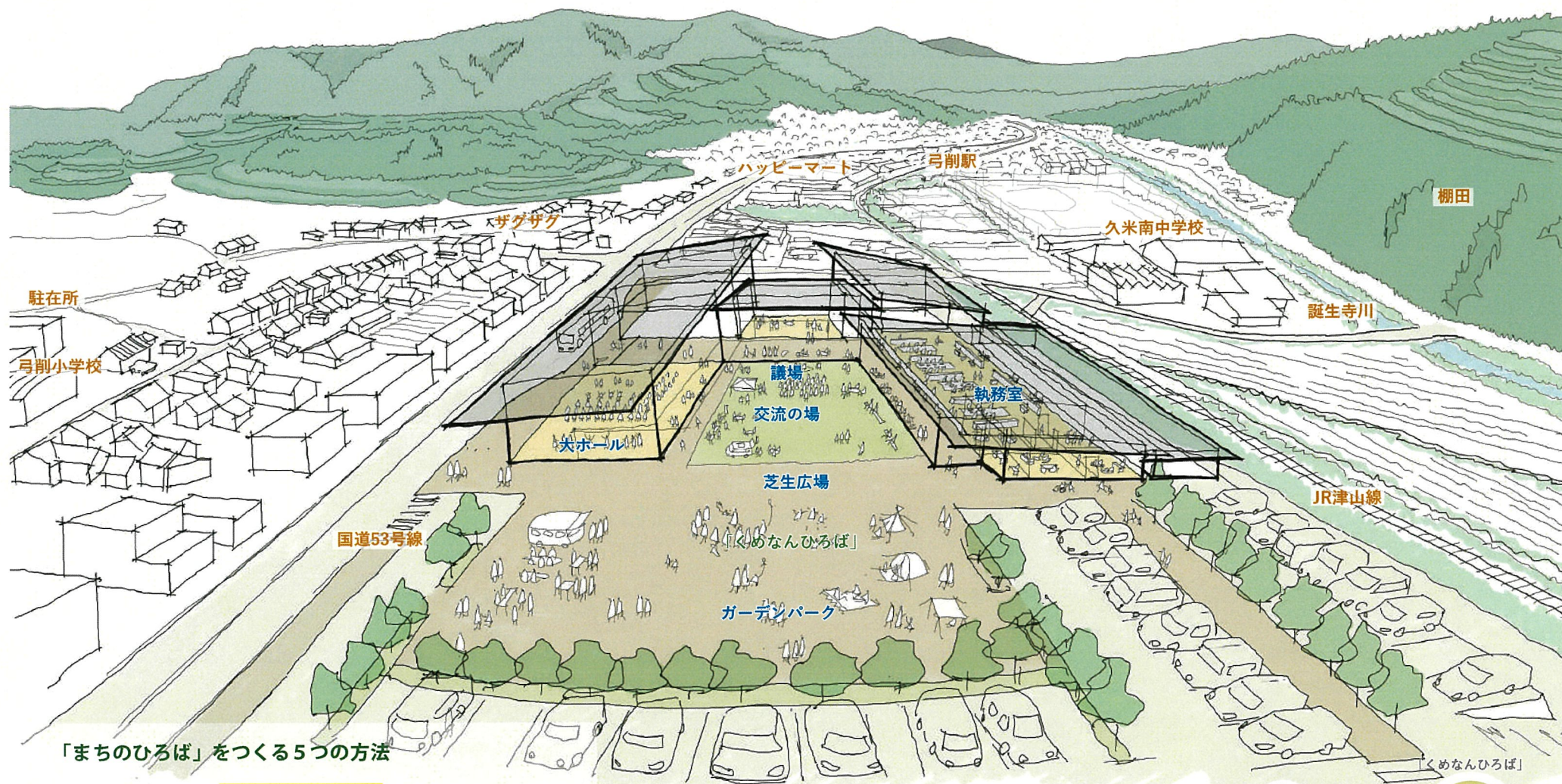


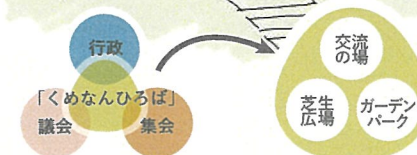
「まちのひろば」をつくる

まちづくりの拠点として、人々がつどい、協働する場となるまちのひろばを目指します



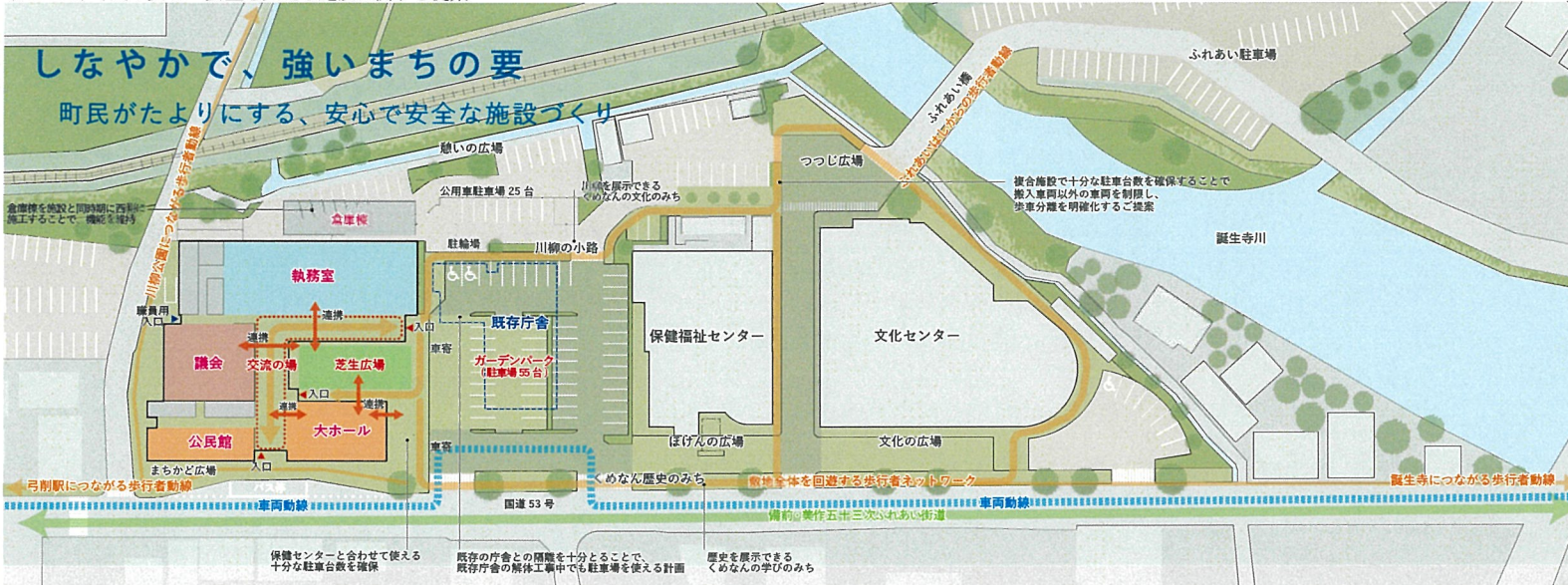
「まちのひろば」をつくる5つの方法

- 1 常に安心して使える、災害に強く安全な施設とします。
- 2 勾配屋根を持った2階建てとし、周囲の山並みに調和した建物とします。
- 3 明快な3つのゾーニングにより、誰にでも使いやすい計画とします。
- 4 地元産材の木を多用した、世界に誇れる施設とします。
- 5 豊かな自然の力を利用した、久米南モデルの環境建築とします。

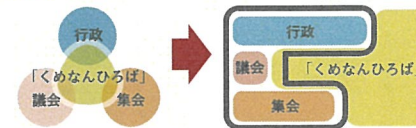


※今後の検討より建物形状は変わります。

(テーマ1) 町民の安心・安全を支える施設に関する提案



- 「くめなんひろば」を中心にした明快なコの字プラン
- ・行政、議会、集会の3つの機能が「くめなんひろば」を中心につながり、まちへと広がる**シンプルなコの字型のプラン**とします。

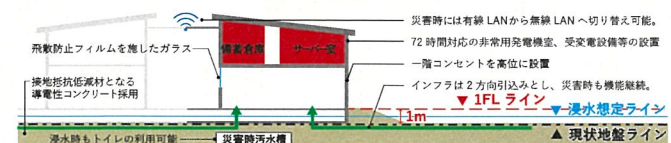


●歩車動線の分離と明快な配置計画

- ・公用車の駐車場と来庁者の駐車場を**明確に分けた**、安全な計画とします。
- ・来庁者の車両動線と、周囲から建物へと至る歩行者動線が交錯しない計画とし、複合施設からふれあい駐車場へ至る**安全な歩行者動線**を確保します。
- ・国道から近い位置に**車寄せ**を設け、バスやタクシーなどの一時的な車を出来るだけ敷地内に引き込まず処理する計画とします。
- ・敷地から車寄せを通じた歩行者動線は庇を設け、**アプローチ空間**として演出を行います。

あらゆる災害に耐えられる強い構造

- ・浸水対策として1階及び駐車場の**床レベルを約1m高く設定**します。
- ・**大きな屋根**により、雨や風に強い建物とします。
- ・大地震時にも損傷無く利用し続けられる構造計画とし、**複数回の大地震に耐える**事が可能な計画とします。(岡山県建築物耐震対策等基本方針による耐震安全性の目標1類を確保します。)
- ・直下型も含めたあらゆる地震を想定し、**耐震性能を確保**します。
- ・強固な地盤を活かした**直接基礎を採用**します。(周辺地盤調査より判断)
- ・柱と梁を鉄骨造とした**鉄と木のハイブリッド構造**により建物の軽量化を図り、合理的で耐震性の高い建物とします。
- ・耐震壁やブレースの無い、**可変性の高い構造**とします。
- ・不燃材料を効果的に用いる事で**建物の不燃化**に努めます。



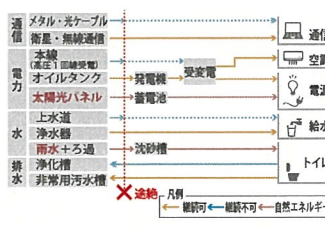
構造形式	RC造	S造	木造	S+木造
模形式				
フレキシブル	◎中スパン	◎長スパン	△短スパン	◎長スパン
居住性	◎良い	◎良い	◎振動が発生	◎良い
浸水影響	◎問題なし	◎問題なし	△腐食おそれ	◎問題なし
強風	◎十分な強度	◎十分な強度	△強度小さい	◎十分な強度
建物重量	△重い	◎普通	◎軽量	◎軽量
総合評価	○	○	△	◎

■純ラーメン構造イメージ

■構造比較検討表

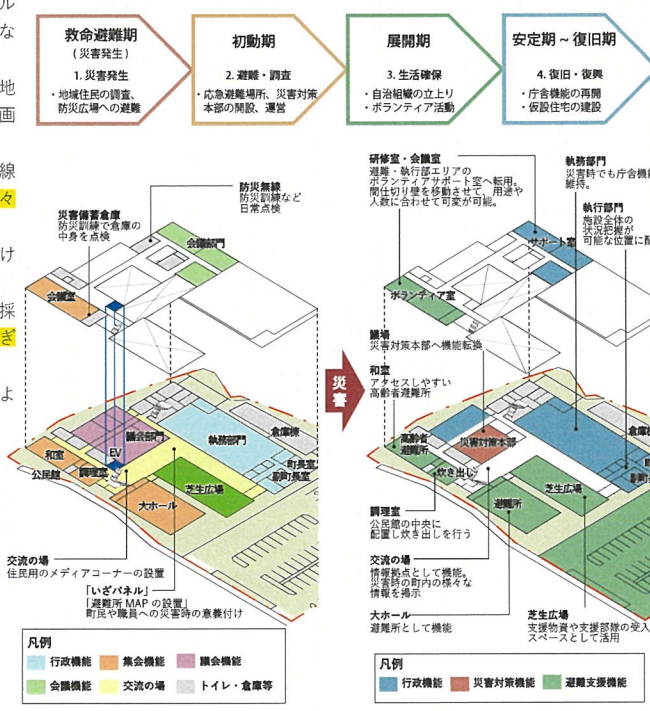
機能維持が可能な施設

- ・インフラ停止時にも維持可能な自立型エネルギーとして、停電時にも**7.2時間稼働可能な発電機**を計画します。
- ・重要な機器のある諸室は**床免震を採用**し、地震時の機能維持を図ります。また、防火区画により万全の耐火性能を保持します。
- ・災害時にも情報収集、伝達可能な有線、無線による放送設備や町防行政無線など、**様々な防災情報機能に対応**可能な計画とします。
- ・壁や窓などの**二次部材についても**損傷を受けない構造とします。
- ・高い天井は小さく区切った上で、吊天井を採用しない二重の対策で、**天井落下事故を防ぎます**。
- ・高さのある家具は床に**ボルト固定が可能な**ように下地処理を行います。
- ・高所の吊照明は**防振処理**を行います。



■ライフライン継続イメージ

災害対策、支援拠点へのスムーズな転換



■平時の施設利用イメージ

- ・災害時は**議場が災害対策本部に転換**します。1階の中心に位置するため、各部門との素早い連携が可能です。
- ・明快なコの字プランにより、災害時に住民が避難してきた際も避難支援と災害対策拠点との**明快なゾーニング**が可能です。
- ・災害時にも「くめなんひろば」を介した**分かりやすい災害救援活動**が可能です。防災まちづくりイベントなどが平時に行われる事により、更にスムーズな転換を可能にします。
- ・倉庫棟を建物西側に配置し、広い駐車場エリアを確保し、**ヘリコプターの緊急離着陸場利用**も可能です。
- ・ガーデンパークには**マンホールトイレ**を設置可能な計画とします。
- ・備蓄倉庫を設置し、**適切な量の備蓄**が可能な容量を確保します。
- ・調理室を**1階**に設け、交流の場への炊き出し作業をスムーズに行います。
- ・和室を**1階**に設け、高齢者も容易に避難ができる計画とします。外部からも直接アクセスが可能な場所へ配置します。
- ・災害時に駐車場や交流のひろば等の**屋外空間を活用**出来る計画とします。

※今後の検討より建物形状は変わります。

まちづくりの拠点となる「まちのひろば」

交流の拠点として気軽に集い、憩い、協働の場となるまちの核づくり

大ホール

芝生広場

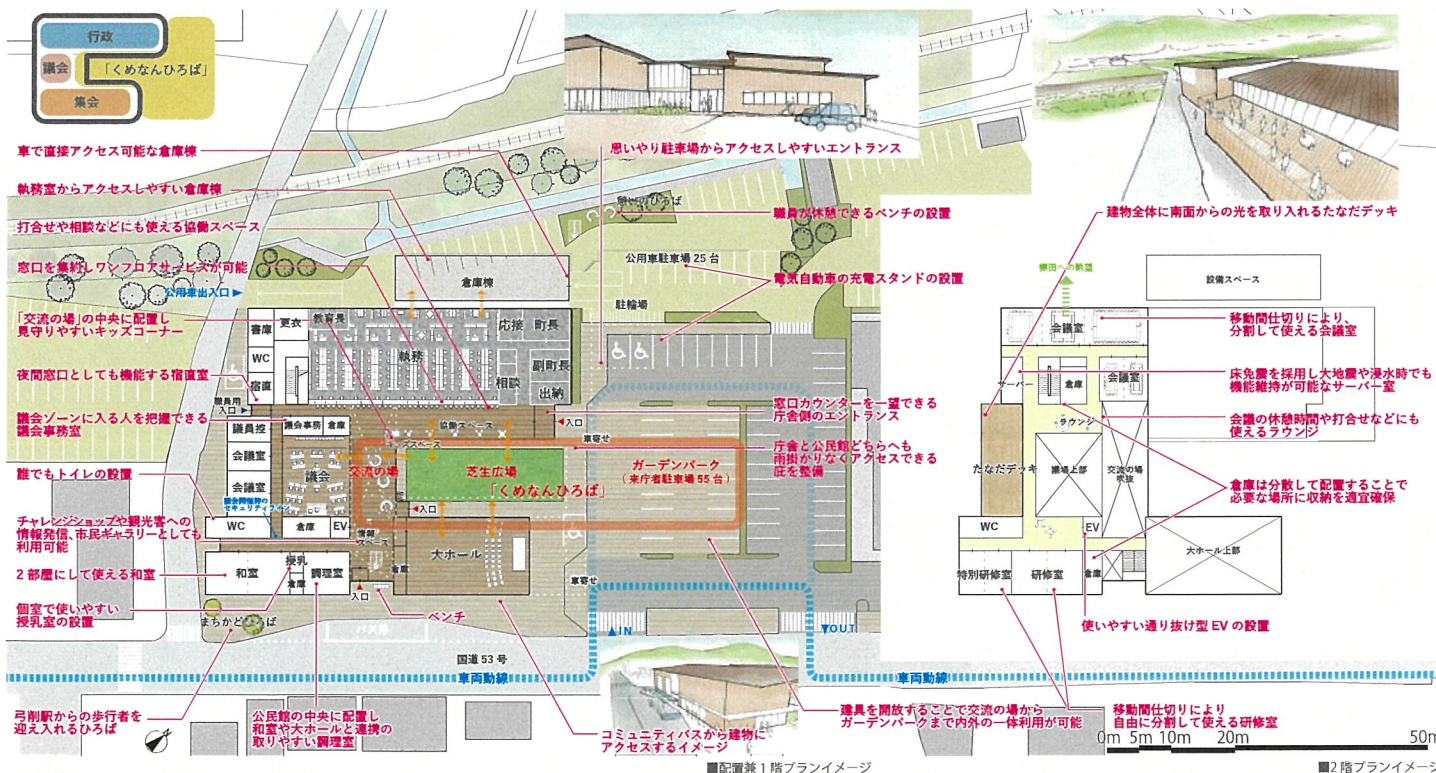
町民が思い思いにすごす憩いの場

大ホールでの活動を始めることができる観客席

キッズスペースの延長としても利用可能

庁舎窓口

地域で取れた野菜を販売するマーケット



川柳公園
川柳駅
誕生寺
弓削駅

■ まちづくりの輪

森林 地元産材の木 内外装材に使用 什器の新調 建具の作成

勾配屋根による地域の景観に溶け込んだデザイン

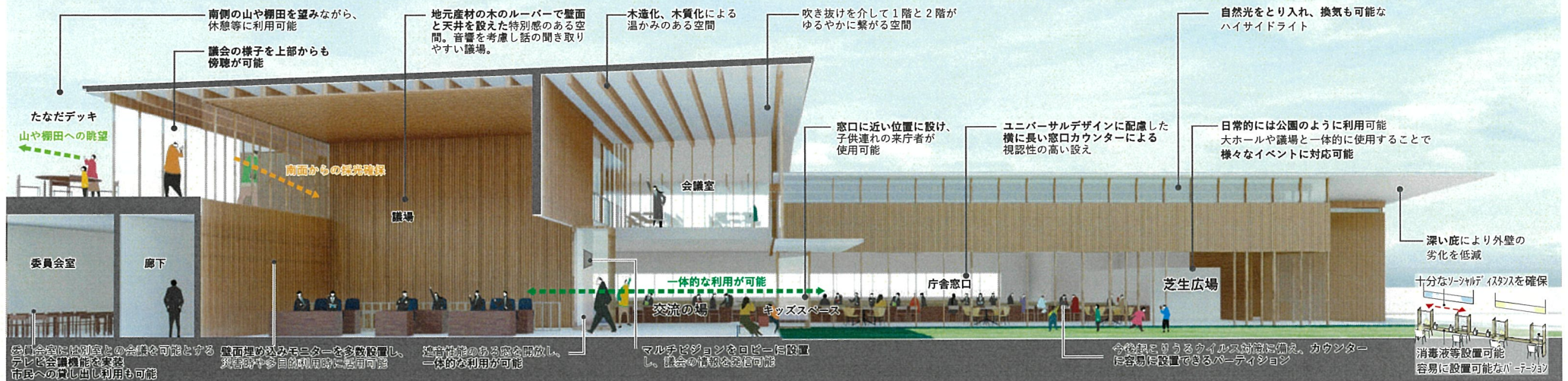
大ホール、芝生広場を使って講演会

・「くめなんひろば」では町民と一体となった防災訓練を行う事が可能です。まちづくりのイベントも絡めながら定期的に防災訓練を町ぐるみで行う事で、交流も深まり、強い町に育ってゆきます。

※今後の検討より建物形状は変わります。

使いやすい柔軟な施設

すべての人に分かりやすく、使いやすい施設づくり



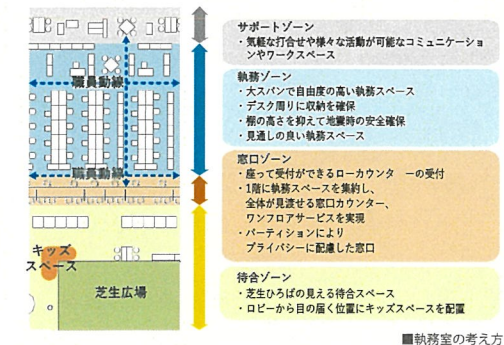
「くめなんひろば」でつながる3つの機能的な空間

- ・「行政」「議会」「集会」の3つの機能が独立性を保ちながら「くめなんひろば」を中心につながる機能的で使いやすい空間構成となります。



●訪れやすく、使いやすい庁舎

- ・庁舎機能を、1階に集約して配置することで、町民の利用がすべて1階のワンフロアでサービスが可能となる計画とします。
- ・窓口・待合ロビーからの視認性に配慮し、間仕切りを極力なくした見通しのよい空間とします。
- ・窓口カウンターはブライバシーに配慮し、窓口毎にパーティションを設けます。
- ・執務室に近接して、ベビーカーや歩行者でも利用しやすい個室の相談室を設けます。



■執務室の考え方

●独立した議会機能

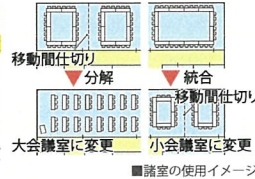
- ・壁面にモニターを多数配置するなどIT化に対応、災害時にも活躍する機能的な議場とします。
- ・自然光が降り注ぐ明るく、会話が聞き取りやすい音響に優れた空間とします。
- ・傍聴のしやすい、開かれた議場とします。
- ・議場や委員会室は、会議室としても利用可能とします。



■災害対策本部イメージ

●町民活動の中心となる会議室

- ・会議室は2階に集約して配置します。移動間仕切り壁を開放させることで、使用する用途や人数規模に応じて、さまざまな使い方に対応できる設えとします。



■諸室の使用イメージ

●町民がつながり、まちに広がる可変性のある空間

- ・「くめなんひろば」を中心に各室が有機的につながることで、さまざまな活動ができる計画とします。



■さまざまな活動イメージ

ホスピタリティあふれる施設づくり

●利用者に優しいユニバーサルデザイン

- ・さまざまな利用者を想定し、それぞれの視点に立って、誰もが利用しやすい施設として、ユニバーサルデザインの検討を行い、具体的な配慮事項を検討します。
- ・子育て世代にやさしい授乳室や子供トイレの設置、誰でもトイレや触知図、音声案内、使いやすさに配慮した階段や廊下、トイレの寸法の設定など、誰もが使いやすい細やかな設計を目指します。

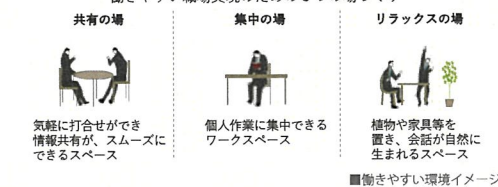


■様々なユニバーサルデザイン

●だれもが働きやすい環境づくりの考え方

- ・執務ゾーンの近くに打合せコーナーの設置や職員どうしのコミュニケーションが図りやすいスペースを設置し、効率的な業務環境を整えます。
- ・働き方の効率を高めるためにリフレッシュできる快適なスペースを提案します。

働きやすい職場実現のための3つの場づくり

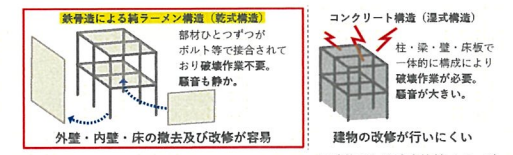


■働きやすい環境イメージ

まちとともに変化する庁舎

●変化に対応できる構造

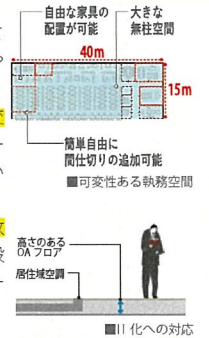
- ・柱と梁を鉄骨造とした純ラーメン構造を採用します。これにより将来の改修時において、すべての外壁や内壁を撤去することが可能です。
- ・内壁外壁及び屋根、床の構造は、コンクリート造等による湿式構造と比べてはるかに改修しやすい、木造の乾式構造によって造ります。



■改修のしやすい比較イメージ

●変化に対応する施設づくり

- ・庁舎執務室は上級職の個室も含めて大きな無柱空間とし、自由な家具や間仕切りの配置が可能とします。
- ・将来の防災設備の充実やIT化等の変化に対応するため、予備設備スペースの確保や設備配管が交換しやすい計画とします。
- ・様々な住民対応に向けて、軽易な改造で個別に対応できる相談室の増設や町民サービスを充実させるスペースへ転換できる計画とします。



■川へへの対応

※今後の検討より建物形状は変わります。

人・自然・環境と共生する

時代と共に生き、長く使い続けられる施設づくり

●久米南の地勢や気候、風土を活かした施設づくり

- ・自然の恵みや資源を最大限に生かした環境配慮を行うと共に、将来起こりうる改修などが行いやすい計画とすることで、**長く使い続けられる施設**を目指します。
- ・長期的運用の視点にたって、過剰な環境配慮技術の採用を避け、建設当初の工事費低減と施設の維持管理費の低減を考慮した、**効果的でバランスの取れた環境配慮技術**を提案します。

●長く使い続けられる施設づくり

- ・耐久性の高い構造体の確保、レイアウト変更が可能なフレキシブル性、維持管理性、更新性などにより、**長寿命化**を図り総合的に環境負荷を低減できる施設とします。

●資源を活かした施設づくり

- ・地元産材の積極利用を図ります。
- ・ホルムアルデヒドなどのVOC（揮発性有機化合物）の少ない材料を使用します。

●自然の恵みを活かした施設づくり

- ・「**光**」を活かし、「**光**」を遮る
 - ・太陽光発電を、日常や災害時における電源として利用します。
 - ・ハイサイドライトや窓から**自然光を積極的に取り入れる**ことで照明負荷の低減を行います。
 - ・軒の深い庇やブラインドの設置により日射負荷を低減します。
- ・「**水**」を活かす
 - ・雨水貯留槽を設置し、トイレの洗浄水に利用します。

●「緑」を活かす

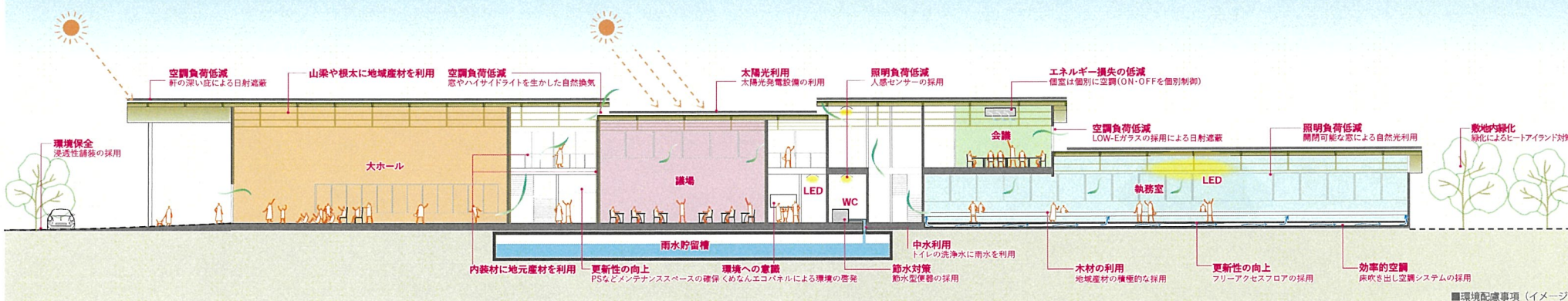
- ・敷地内を積極的に緑化することで、地域生態系の維持や周辺環境への配慮を行います。

●「風」を活かす

- ・多くの開口部により**十分自然換気**ができる構造とします。

●町民とともにくむ環境への意識

- ・太陽光発電量の「見える化」や、環境配慮項目のパネル「くめなんエコパネル」の展示により**意識向上**に貢献します。



無駄のない合理的な施設の計画 (イニシャルコスト低減)

●建物高さの抑制による建設工事費の低減

- ・複合施設は平屋建てを基本とし、建物全体の**高さを抑えた計画**とします。
- ・建物高さを抑えることで、建物に加えられる地震力が抑えられ**構造部材のスリム化**や、低コスト化が図れます。また建設工事の工期が短縮され、トータルの工事費を抑えることにつながります。

●施工方法による低コスト化

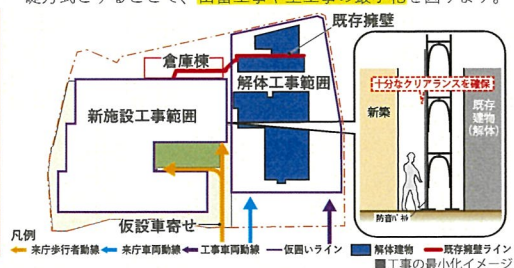
- ・木造の施工について、小断面の部材で構成することや住宅でも用いられるような簡易な接合方法を用いて設計することで、**地元の企業や職人でも施工が可能**な計画とします。シンプルな架構形式で簡易な工法などによりコスト削減にもつながります。

●木材使用によるコストダウンの考え方

- ・屋根や小梁、2階床を木造とすることで建物の軽量化を図ります。地震力も軽減され**構造部材のコスト削減**が図れます。
- ・施設の内外部に使用する仕上げ材や羽柄材（構造材を補う材料や下地材）に**地元産の間伐材を積極的に採用**することで、建築材料費の低減を図ります。
- ・市場に一般的に流通している**小さな規格の木材**（木造住宅で使用するような大きさ）を利用することにより、大規模木造でありながらも低コスト化を図ります。
- 敷地の特性を生かした構造計画
 - ・低層に抑えられた建物荷重を直接良好な地盤に伝達する直接基礎方式とすることで、**山留工事や土工事の最小化**を図ります。

建物の構成	3層（講堂3階）	2層（講堂2階）	基本平屋（講堂1階）
項目			
周辺への配慮	△ 前面道路に対して圧迫感	△ 前面道路に対して圧迫感	○ 施設中央に講堂を配置し低層化
工期	△ 換工期となる可能性あり	△ 換工期となる可能性あり	○ 基本平屋とすることで工期短縮が可能
共用部面積	△ 各階に共用部が必要となり施設面積が増	○ 2階と共用部コンパクト化により面積減	○ 1階と共用部コンパクト化により面積減
屋外空間との関係	△ 隣接隣の公民館との関係性が希薄	○ 庁舎、公民館両方からのアクセス良好	○ 庁舎、公民館両方からのアクセス良好
講堂との関係	△ 5階にあることで閉鎖時の利用 難	△ 2階にあることで閉鎖時の利用 難	○ 1階にあることで閉鎖時の利用 良好

●行政機能 ●集客機能 ●議会議場 ●ひろば ●ポリウム検討比較表



将来にわたって使いやすい施設の計画 (ランニングコスト低減)

●水光熱費の低減の工夫

- ・人感センサーや昼光センサーなどによる点滅制御設備や、高効率な設備機器やトップランナー基準の機器、節水型便器など積極的な省エネルギー対応の設備機器を採用することにより、毎年の**水光熱費の使用料削減**に寄与する計画とします。
- ・開口部へのLow-eガラスの採用など外壁の断熱性能の向上やハイサイドライトを含む多くの窓の設置により**中間期の空調負荷を低減**する計画とします。
- ・執務室は輻射熱を利用した床吹き出し空調による居住域空調や空間全体を照らす天井照明とデスクライトを組み合わせたタスクアンビエント照明の採用等により、必要な部分に必要な設備を供給する考え方で**トータルの設備負荷を低減**します。

●保全費低減の工夫

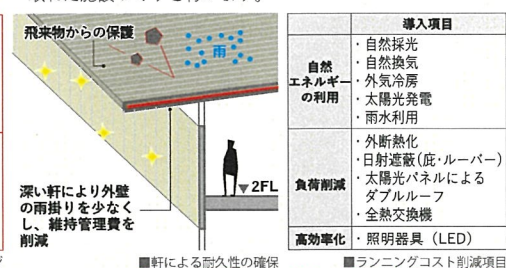
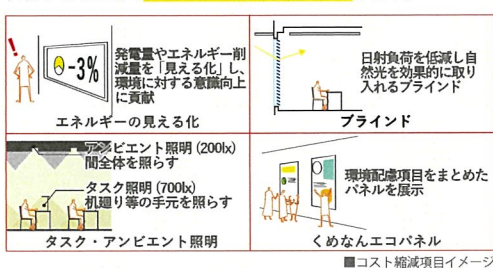
- ・設計段階から**将来を見越した計画**とし、清掃や警備、環境衛生、保守点検など施設運営に欠かせない保守関連費用を抑えられる計画とします。

●修繕更新費低下の工夫

- ・**耐久性が高く長寿命な機器や部材の積極的な採用や汎用規格品、量産品の採用**により修繕・更新時の費用が抑えられる計画とします。

●ライフサイクルコスト削減の検証

- ・CASBEIによる**環境配慮技術の選定評価ツールの活用**により、より高次のランクを目指し実効性と経済性のバランスの取れた施設づくりを行います。



※今後の検討より建物形状は変わります。